

第 73 期第 2 回男女共同参画推進委員会議事録

日 時：2017 年 9 月 11（月）10：00-12:15

場 所：日本物理学会 大会議室（東京都文京区湯島 2-31-22 湯島アーバンビル 4 階）

出席：野尻（委員長）、遠山（副委員長）、佐野、曹、永廣、藤井、細越、山本（以上委員）
板倉、中本（以上オブザーバー）

根岸、野秋、岡村（事務局）

欠席：糸井、高安、福島、藤原、間宮、本橋（以上委員）、笹尾、森（オブザーバー）、

【議題・報告等】

1. 第 73 期第 1 回委員会議事録(2017 年 3 月 3 日)の確認

- ・ 前回議事録は原案どおり承認された。

2. 理事会報告

- ・ 初の企画としてランチミーティングが承認され、お弁当 50 食の提供も認められた。

3. 国際関係(報告)

3-1GS10 報告

- ・ 参加報告書に基づき活動報告が展示ポスターとして掲示されたこと等が報告された。

3-2IUPAP -WIP 報告

- ・ 野尻委員長と遠山副委員長が、7 月 16 日-20 日までバーミンガムに参加をした IUPAP について、参加報告書に基づき次のような報告があった。

- ・ 欧米では科研費審査、大学評価等での女性参加の状況や改善方法を評価項目に加えたところ、女性の参加が飛躍的に向上したこと発表され印象的であった。
- ・ フランス物理学会の発表では、会議の女性参加者とスピーカーが参加者の同数かそれ以上いなければ主催共催をしない等を定め、他の学会にも同等の要綱を制定するよう呼びかけている。日本ではこのようなことは難しいと思うが、主催・共催の女性参加者比率と登壇者数の調査は可能ではないか。

物理学会の会員動向について発表した。物理学会では入会時点での女性比率は 10% であるが、長期に物理学会に在籍している会員の中での女性比率は 7% 程度であり、何らかの対策が必要と考えている。とくに育児・出産あたりのサポートが必要ではないか、などの意見が出された。

4. アテナプログラム

- ・ 2017 年に藤井前会長が KEK を訪問し、招聘された研究者と懇談した記事を「男女共同参画推進委員だより」に掲載されたことが報告された。

5. RPD10 年史

RPD10 年史に野尻委員長、石原氏、青木氏が記事を掲載したことが報告された。

6. 日物応物連絡会

日物応物連絡会の責任者は3年ごとの持ち回りとなっているが、日本物理学会の森責任者の任期は2017年10月末で満了となり、次期責任者は応用物理学会が担当することになる。これに伴い、次期副責任者として男女共同参画推進委員会前委員長の板倉オブザーバーが就任することが承認された。

7. 夏学報告

2017年8月5日-7日まで開催された2017年女子中高生夏の学校について、実験実習は「身近な表面張力現象」を行ったこと、ポスターの展示では偏光板が盛況であったこと、2018年の日程は、2018年8月9日-11日（木～土）で山本委員が実行委員長になること等が報告された。また、次ような報告等があった。

- ・山本委員の後任として中本オブザーバーの紹介があった。
- ・夏学については、JSTの補助が決定していないので共催で10万円を申請するよう予算申請をする。
- ・関西科学塾は大学の持ち回り、夏学は学協会の一部として活動しているが、両者の在り方について意見交換があり、次回委員会で改めて議論することとなった。

8. 学協会報告

大規模アンケート報告：

- ・第4階大規模アンケートの解析の185頁の全体報告書が9月8日（金）に公開された。物理学会の1,319名（男性：1,120名、女性：199名）分のデータの借用申請を行い、誓約書の提出、エクセル形式で入手済である。自由形式欄は配布不可。45項目については利用可能。物理学会の解析物は物理学会が著作権を所持している。
- ・年次大会で大規模アンケートの報告を発表することについて、佐野委員・曹委員・野尻委員長・遠山副委員長で進める。
- ・細越委員のデータベース使用者の追加について佐野委員が問合せをする。

学協会連絡会：

- ・第15期第3回運営委員会報告は、各自確認する。
- ・次回、第16期第1回運営委員会は12月に次の幹事学会の日本建築学会が担当する。
- ・第15回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの概要が説明された。参加者：遠山副委員長、福島委員、糸井委員、板倉オブザーバー。予稿集とポスターは遠山副委員長が担当。

- ・第 17 期幹事学会としてのタイムスケジュール（案）を基に全体体制素案を議論した
- ・役割分担大枠予定：
 - 運営委員会委員長：野尻委員長（2018 年 11 月～）、
 - 運営委員会副委員長：遠山副委員長、
 - 1. 運営庶務 3 名：運営委員会会場、議事録作成、運営委員会連絡、e-mail の仕分けなど諸々（福島委員）
 - 2. シンポジウム 6 名：シンポジウム会場、シンポジウムのアルバイト手配、シンポジウムのテーマ、交渉、(曹委員、藤井委員)
 - 3. 会計 2 名：通帳は事務局、入出金の確認、請求、全体の運用予算、(糸井委員) 会場（運営委員会 3 回、シンポジウム）有料の確認。

9. 学協会シンポジウムの参加と準備状況について

8. の学協会報告で済み。

10. 第 73 回年次大会のランチミーティングの準備状況について（細越）

- ・集客拡大を目的とし、1 時間の昼食時間を利用してランチョンセミナーを企画し昼食お弁当代として 50 食が理事会で承認されたことが報告された。
- ・対象者、話題を絞る。
- ・講師は、石崎章仁先生、服部梓先生。
- ・今後、担当の藤原委員・高安委員・細越委員が司会者を決定し、中心となって進める。
- ・スカイプを利用して議論をすることが提案された。

11. 来年度予算について

- ・委員数プラス 3 名、茶話会弁当代@700×50 名、関西科学塾 50,000 円、国際会議 2018 年は無、夏学は分担金として 10 万円、旅費（委員会 6 回、学協会 5 回）、シンポ参加 10 名）

12. 秋季大会の託児室の準備状況及び今後の託児室の運営について（野尻）

- ・今回は今まで同じ形式ですすめたが、子供の受付は事務局が行い、相互の連絡については ML を活用するなどの効率化をおこなった。とくに、託児室の世話人は：シッター会社の決定を担当した。
- ・秋季大会に参加された委員は託児室の見学をし、次回の委員会では物理学会の事務局担当者も含め今後の運営方針を相談。七十三回年次大会については野尻委員長等が対応。

以上